

平成 30 年 2 月 22 日
特定非営利活動法人トランスペアレンシー・ジャパン
理事長 若林亜紀

TI CPI 2017 (腐敗認識指数) の発表

前略

汚職・腐敗防止活動を展開する国際NGOトランスペアレンシー・インターナショナル(略称TI、本部ベルリン)は、2月21日夕方(日本時間で22日)、「CPI 2017」(腐敗認識指数、corruption perception index)を発表しました。

日本支部であるトランスペアレンシー・ジャパン(略称TI-J)が概要を翻訳してお届けします。

この指数は、世界180の国と地域において、専門家とビジネスマンにアンケートを行い「公的部門が腐敗していると感じている」と答えた人の割合を指数化したものです。ゼロから100までに点数化し、0に近いほど腐敗度が高く、100だとたいへん清廉です。今年は3分の2以上の国が指数50以下で、平均は43でした。

CPIは1995年から毎年発表されており、今年で25回目です。

日本は指数73、第20位(前年は指数72、20位)と昨年より指数がやや上がったものの順位は同じでした。

トップはニュージーランド(89)、デンマーク(88)で、ワーストは下からソマリア(9)、南スーダン(12)、シリア(14)です。地域的にみると、西欧諸国が指数平均66と高く、サハラ以南アフリカ(同32)、東欧(同34)と中央アジア(同34)が低いといえます。

世界の多くの国で腐敗排除の取り組みの歩みはのろく、腐敗対策の機運は高まったものの、実際はまったく、あるいはほとんど進展がなかったという国もあります。報道の自由や市民運動が保護されていない国では腐敗度が高くなっています。

この6年で清廉度がめざましくあがったのはコートジボアール、セネガル、英国です。一方、シリア、イエメン、オーストラリアが順位を落としました。

腐敗度と報道の自由と市民運動の保護の動の関連度を分析すると、2012年以降のジャーナリストの殺害は、すべて腐敗度の高い国で起きていました。とりわけ指数45以下の国で9割が亡くなっています。腐敗度の高い国では毎週ジャーナリストが殺されているといえます。亡くなったジャーナリストの2割が腐敗について取材中でした。残念ながら、正義は

勝てませんでした。

指数37のブラジルでは、この6年で20人のジャーナリストが亡くなっています。地方政府の腐敗や麻薬関連の犯罪を取材すると命の危険があります。

また、市民活動の自由が保障されていない国においても腐敗度が高い傾向にあります。国によって、市民活動をつぶそうとしたり、嫌がらせや訴訟で封じこめようとしたり、行政手続きを煩雑化することによって、反腐敗運動を封じ込めようとする政権があります。

ハンガリーはこの6年で指数が55から45まで10下がりました。今、ハンガリーではNGOの活動を制限し、認証を取り消して財政基盤を崩そうという法案が提出されています。

以上

特定非営利活動法人トランスパレンシー・ジャパン (TI-J)

電話 080-7026-1672

E-mail information@ti-j.org URL www.ti-j.org